



岡橋秀典先生

岡橋秀典先生 略年譜・主な著作

生 年：1952年

出身地：奈良県生駒郡斑鳩町

【学歴】

- 1971年3月 私立奈良育英高等学校卒業
- 1971年4月 名古屋大学文学部入学
- 1975年3月 名古屋大学文学部史学科地理学専攻卒業
- 1975年4月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期（史学地理学専攻）入学
- 1977年3月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程前期（史学地理学専攻）修了
- 1977年4月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期（史学地理学専攻）進学
- 1980年3月 名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期（史学地理学専攻）単位修得退学
- 1980年4月 名古屋大学研究生（大学院文学研究科）
- 1980年10月 名古屋大学研究生（大学院文学研究科）退学

【学位】

- 1995年5月 博士（地理学）（名古屋大学）

【職歴】

- 1980年11月 九州大学文学部助手
- 1982年4月 新潟大学教養部講師
- 1985年9月 広島大学文学部講師
- 1987年4月 広島大学文学部助教授
- 1994年3月－11月 オーストリア・インスブルック大学研究員（日本学術振興会派遣）
- 1997年4月 広島大学文学部教授
- 2001年4月 広島大学大学院文学研究科教授
- 2004年4月 国立大学法人広島大学大学院文学研究科教授
- 2006年4月 広島大学総合博物館長（2017年3月まで）
- 2010年4月 広島大学現代インド研究センター長（2015年3月まで）
- 2013年10月 広島大学大学院リーディングプログラム（たおやかで平和な共生社会創生プログラム）コーディネーター（2018年3月まで）
- 2015年4月 日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員（2018年3月まで）

- 2017年10月 日本学術会議連携会員（現在に至る）
- 2018年3月 広島大学を停年退職
- 2018年4月 奈良大学文学部地理学科教授
- 2023年3月 奈良大学を退職

【受賞歴】

- 2007年3月 日本地理学会賞（優秀賞）
- 2016年11月 第15回学長表彰（広島大学）

【非常勤講師出講先】

- 1988年度 広島修道大学
- 1990年度 名古屋大学経済学部
- 1991年度 広島女子大学
- 1991年度 大分大学経済学部
- 1992年度 名古屋大学文学部
- 1997年度 九州大学文学部
- 1997年度 東京大学大学院総合文化研究科
- 1997年度 神戸大学大学院総合人間科学研究科
- 1998年度 神戸大学大学院総合人間科学研究科
- 1998年度 東北大学大学院理学研究科
- 1998年度 岡山大学教育学部
- 1999年度 金沢大学文学部
- 1999年度 島根大学法文学部
- 2000年度 大分大学経済学部
- 2000年度 京都大学大学院文学研究科
- 2002年度 奈良女子大学大学院人間文化研究科
- 2003年度 北海道大学文学部
- 2009年度 京都大学大学院文学研究科・文学部
- 2009年度 筑波大学大学院生命環境科学研究科
- 2012年度 岡山大学文学部
- 2016年度 金沢大学文学部
- 2020～2022年度 関西大学文学部

【所属学会（役員歴のあるもののみ）】

日本地理学会（1977年入会、評議員：1996年4月－2002年3月、代議員：2004年4月－2006年3月、2008年4月－2016年3月、2018年4月－2020年9月、理事：

2006年4月－2008年3月、監事：2014年6月－2018年6月、2022年6月－)
人文地理学会（1974年1月入会、協議員：1992年11月－2014年9月、監査：2012年11月－2014年9月、代議員2016年10月－2018年9月、2022年10月－、理事2018年10月－2022年9月）
経済地理学会（1979年5月入会、関西支部幹事：1988年－1990年、西南支部幹事：1991年－1996年、評議員：1997年－2005年、2008年－2013年、2016年－2019年、西南支部長：2008年－2009年）
地理科学学会（1985年9月入会、編集専門委員：1986年－1999年、評議員：1992年－1999年、2002年－2005年、2008年－2009年、2012年－2013年、2016年－2022年、合同委員会委員長：1998年－2005年、会長：2006年－2007年、2010年－2011年、2014年－2015年）
日本南アジア学会（1990年4月入会、理事：1996年10月－2000年9月、常務理事：2012年10月－2016年9月、2018年10月－2022年9月、編集委員：1997年10月－1999年9月、2002年10月－2004年9月）
地域地理科学会（1994年4月入会、協議員：1995年－2013年、評議員：2014年－2017年）
広島史学研究会（1986年7月入会、理事：1999年4月－）

研究業績

【主な著書】

1. 『周辺地域の存立構造－現代山村の形成と展開－』大明堂、399頁、1997年2月（単著）
2. 『インドにおける工業化の新展開と地域構造の変容－マディヤ・プラデーシュ州ピータンプル工業成長センターの事例』広島大学総合地誌研究資料センター（総合地誌研究叢書30）、263頁、1997年11月（編著）
3. 『インドの新しい工業化－工業開発の最前線から－』古今書院、222頁、2003年3月（編著）
4. “Emerging New Industrial Spaces and Regional Developments in India”、MANOHAR、197頁、2008年（編著）
5. 『現代インドにおける地方の発展－ウッタラーカンド州の挑戦』海青社、279頁、2014年3月（編著）
6. 『台頭する新経済空間（シリーズ現代インド 第4巻）』東京大学出版会、325頁、2015年3月（友澤和夫と共編著）
7. 『現代農村の地理学』古今書院、126頁、2020年10月（単著）

【学術雑誌掲載論文（査読あり）】

1. 工業化地域周辺山村における農業の変貌と農民層の動向－愛知県三河山間地域の場合－、人文地理30-2、97-116頁、1978年4月（単著）

2. 奥飛騨山村・上宝村における非通年型雇用の展開と農業・農民層の動向、地理学評論53-8、511-530頁、1980年8月（単著）
3. わが国山村における就業構造の動向分析－1965～75年を対象として－、経済地理学年報27-1、16-30頁、1981年5月（単著）
4. 過疎山村・大分県大山町における農業生産の再編成とその意義－農村・都市間人口移動の制御サブシステムとしての農協・自治体の事例として－、人文地理36-5、413-431頁、1984年10月（単著）
5. わが国における山村問題の現状とその地域的性格－計量的手法による考察－、人文地理38-5、461-479頁、1986年10月（単著）
6. 新過疎時代の山村問題、地理科学43-3、31-38頁、1988年7月（単著）
7. 現代日本における山村研究の課題と展望、人文地理41-2、44-71頁、1989年4月（単著）
8. 「周辺地域」論と経済地理学、経済地理学年報36-1、23-39頁、1990年3月（単著）
9. ルーラル・デザインの展開と農村景観論、地理科学48-4、23-36頁、1993年10月（単著）
10. 西中国山地・広島県加計町における過疎化と集落システムの変動、地理学評論68、657-679頁、1995年10月（単著）
11. Development of Mountain Village Studies in Postwar Japan : Depopulation, Peripheralization and Village renaissance, Geographical Review of Japan 69 (Ser. B)、60-69頁、1996年7月（単著）
12. わが国における農産物直売所の展開とその存在形態、地域地理研究2、44-55頁、1997年6月（単著）
13. インドの低開発地域における大規模工業開発と労働市場－マディヤ・プラデーシュ州ピータンプル工業成長センターの事例－、経済地理学年報46、225-245頁、2000年9月（友澤和夫との共著、筆頭著者）
14. 21世紀の日本の山村空間－その可能性と課題、地学雑誌113-2、235-250頁、2004年4月（単著）
15. グローバル化時代における中山間地域農業の特性と振興への課題、経済地理学年報53-1、26-40頁、2007年3月（単著）
16. インドにおけるITI（産業訓練校）教育の展開と人的資源開発－バンガロールの事例を中心として、地理学評論80-8、463-480頁、2007年7月（単著）
17. 知識経済化時代における中山間地域の新展開－東広島市福富町竹仁地区の事例を中心として－、地理科学63-3、194-204頁、2008年7月（単著）
18. 東広島市における市民の景観意識と景観づくりへの課題－アンケート調査にもとづく一考察、広島大学総合博物館研究報告2、19-33頁、2010年12月（単著）
19. 経済成長下のインドにおけるヒマラヤ山岳農村の変貌－ウッタラカンド州の事例－、地理科学66-1、1-19頁、2011年1月（番匠谷省吾・田中健作・チャンド, R.との共著、筆頭著者）

20. インドの山岳州における工業化と低開発問題－ウッタラカンド州の事例から、広島大学現代インド研究－空間と社会 1、27-36頁、2011年 3月（田中健作・ティワリ,P.C.との共著、筆頭著者）
21. 現代インドの空間構造と地域発展－メガ・リージョン研究に向けて－、広島大学現代インド研究－空間と社会 2、1-15頁、2012年 3月（単著）
22. インドにおける地理学の発展と課題、地学雑誌121、874-890頁、2012年 6月（南 埜 猛・澤 宗則・スッバイヤー、S.P.との共著、筆頭著者）
23. Development of Contemporary India Area Studies as Part of Geographical Studies in Japan since the 1980s, Geographical Review of Japan Series B 86-1、40-51頁、2013年 7月（単著）
24. 日本の地理学におけるインド地域研究の展開：1980年代以降の成果を中心に、広島大学現代インド研究－空間と社会 4、15-27頁、2014年 3月（単著）
25. 大学院分野融合型教育における現地研修の意義と課題－広島大学のたおやかリーディングプログラムを事例として－、E-Journal GEO 11-2、502-515頁、2016年（石川菜央・陳林との共著）
26. Spatial Pattern of Farmland Abandonment in Japan : Identification and Determinants. Sustainability 10 (10) , 3676-, 2018年（Guandong Su, Lin Chenとの共著）

【学術雑誌掲載論文（査読なし）（2018年以降のみ掲載）】

1. 国土空間の再編と大都市圏の発展、地理63-7、8-15頁、2018年（由井義通との共著）
2. インドのヒマラヤ山岳地域における構造変化と開発問題、地理科学73、164-176頁、2018年（単著）
3. 現代山村の存立構造をめぐり一考察：2000年代以降の日本の山村を対象として、奈良大地理25、49-55頁、2019年（単著）
4. 「地理総合」における国際理解とは、学術の動向24-11、32-35頁、2019年（単著）
5. 明日の山村を展望する：山村の変貌と持続可能性、地理65-6、12-19、2020年（単著）
6. 奥吉野山村・奈良県十津川村における一集落の変貌：上湯川集落の200年、奈良大地理27、26-48、2021年（単著）
7. 日本の地籍問題と森林・林業政策一序説として、奈良大地理28、35-47頁、2022年（単著）
8. 山村における新たな木材生産・流通システムの構築とその意義―十津川村の林業6次産業化を事例として、奈良大地理29、6-21頁、2023年（単著）

分担執筆、翻訳、市町村史誌、高等学校教科書（分担執筆）、その他（報告書、一般誌等）はすべて省略した。それらの詳細は、広島大学退職時に発行された『岡橋秀典先生の履歴と業績』岡橋秀典教授退職記念事業会、2018年に掲載している。